

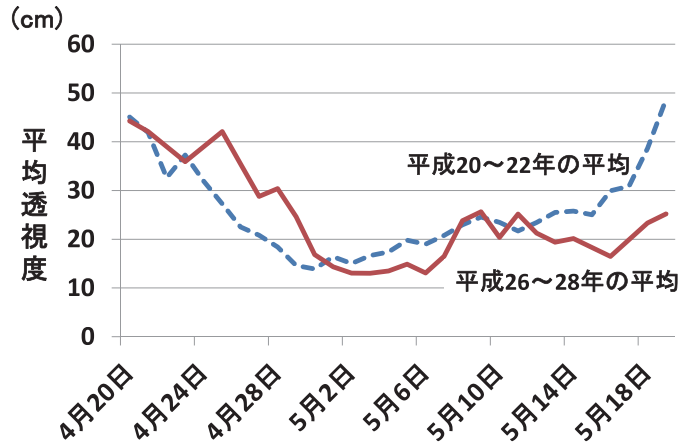
## 泥水流せば土やせる

### ～農業濁水の流出により毎年貴重な土壌が失われる～

管内主要河川の透視度調査結果では、長期的には改善の傾向が見られます。しかし、近年は横ばい傾向となっており、代かきや田植時期には濁水が河川から琵琶湖に流れ込み、河口部では茶色く濁っているのが現状です。また、水田作の経営規模拡大に伴って代かき・田植作業が長期にわたることから、濁水の発生期間が長くなる傾向が見られます(下図)。

田んぼから出る濁水は、排水路、河川を経て琵琶湖まで流れていきます。田んぼと琵琶湖は直接つながっており、琵琶湖の負荷軽減には、農業者一人ひとりが農業排水対策に毎年取り組むことが重要です。

濁水を流出させると、琵琶湖に負荷をかけるだけでなく、みなさんの田んぼから大切な土を流してしまうことにもなります。



代かき・田植え期間の管内主要河川の透視度

## もう一度、確認しよう対策技術

### ①排水口およびその周辺からの漏水防止

入水前に排水口に止水板を設置し、肥料袋等を使ったり土を踏み固めたりして、漏水しないようにしましょう。

### ②浅水代かきの実施

田面の7～8割が見える程度の浅水で代かきを行うことで、前年の稲わらなどの浮き上がりを抑えたり、均平度合いの向上が図れます。また、代かき後に降雨があっても濁水があふれ出ることを防止できます。なお、上手に浅水代かきを実施するためには、事前にあぜ塗りと均平作業をしっかりすることが大事です。

### ③代かき後の適切な入水

近年、濁水の発生源を確認すると、代かき後に過剰に入水し、尻水戸からあふれている状況が見られます。水のムダ使いだけでなく田植前の強制落水にもつながります。適切な入水管理を心がけましょう。

### ④強制落水の防止

田植前の強制落水は、濁水が発生する最も大きな要因になります。特に、直は栽培では、強制落水を避けるために、計画的な水管理を心がけましょう。



入水量が多くてあふれる



やめよう強制落水